

〔県民局・支局だより〕

「干拓のもう一つの顔

Ⅰ Loveファーム笠岡」

備 中 県 民 局 井 笠 支 局 畜 産 班

〈I Loveファーム笠岡〉

果物や野菜の販売、加工を行っているドールという会社をご存じでしょうか。ドールは、最近、国内での野菜生産にも力を入れています。

そのドールと委託契約を結び、干拓でブロッコリーの大規模生産を行っている（株）I Loveファーム笠岡は、2005年に組織を設立し、2006年秋から、社員と契約農家4戸が栽培にあたっています。将来的には関東、関西方面に年間100万個の出荷を見込んでいます。



〈ブロッコリーの栽培〉

笠岡湾干拓地は気候や環境面からブロッコリーの栽培に適しています。

年間を通じて出荷できるように、苗の定植時期をずらすといった工夫もしています。

また、I Loveファーム笠岡では、商品規格、栽培、流通、販売に至るまで一貫して専門スタッフによる管理をしています。除草は手間を惜しまず、手作業または機械を使って草の根を切りながら行っていて、農薬の使用を抑えることで、新鮮で安心、安全なブロッコリーを提供しています。

〈干拓コントラとの連携〉

単一作物を同じほ場で繰り返し栽培していると、土壌成分のかたよりや、病虫害によってしだいに生育障害になっていくことがあります。

干拓には飼料用トウモロコシの生産を行っている干拓コントラがありますが、ブロッコリーの裏作としてコントラにトウモロコシを夏作してもらうことで、土地の有効利用を図ると共に、連作障害への対策にもなっています。

コントラとしても自給飼料が増産できることから、今後も連携を強めたいと思っています。



〈資源循環の取組〉

土づくりにもこだわりを持っており、耕種農家と連携して散布組合を組織し、2006年に県の事業「たい肥を活用！おかやまブランド農産物応援事業」で、コンポストレッダーを導入しました。たい肥は畜産農家で組織する共同たい肥舎から買い取って、散布を行っています。共同たい肥舎のたい肥は県のたい肥共励会にも出品されています。昨年度は31ヘクタールに627トン散布しました。たい肥を利用した土づくりによる野菜

の生産拡大と、循環型農業の促進を目指して、2008年はさらに取組を拡大する計画です。

〈地元根ざした企業〉

平成20年3月には、地元消費者との交流を深めようと、初めて収穫体験会を実施しました。市内の栄養委員ら約40人が参加し、ブロッコリーの栄養価の高さや栽培方法について説明を受けた後、刈取りや試食を行いました。参加した人は広い土地で大規模に栽培が行われていることに感心していました。

〈これからの展望〉

これまでは苗を福井県から陸送していましたが、2007年11月には干拓地内に国庫補助事業を活用して育苗ハウス1棟を建設し、苗を現地

供給する体制を整えました。

集出荷作業は現在、福山市で行っていますが、冷蔵保存機能を備えた集出荷場（1500平方メートル）を2008年中に整備することで、栽培から出荷までを笠岡湾干拓地内で一貫して行えるようにする計画です。

栽培面積は現在、45ヘクタールですが、80ヘクタールを当面の目標にしています。

笠岡市もバックアップする姿勢で、今後は干拓地の有効利用のみならず、地元との連携にも注目が集まっています。